

道 德

(16) 道徳

観 点	着 眼 点
<p>1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫</p>	<p>(1) 生徒の発達段階や特性等に応じた見方・考え方を働かせながら、学習の問題を追究・解決する学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫</p> <p>(2) 生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、自分の考えを深め、それを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実するための工夫</p> <p>(3) 情報活用能力の育成に向け、学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行うための工夫 また、情報モラルに関する学習をするための工夫</p> <p>(4) 学習してきた中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができる工夫</p> <p>(5) 道徳的行為に関する体験的な学習を重視し、家庭や地域社会、各分野の専門家等との共通理解を深め、相互の連携を深めることができる工夫</p> <p>(6) 生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を促すための工夫</p> <p>(7) 各教科、総合的な学習の時間および特別活動や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫</p>
<p>2 使用上の便宜</p>	<p>(1) 内容別配当の分量</p> <p>(2) 教材・資料等の分量</p> <p>(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等</p>

道 徳

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について 生徒が道徳的価値の自覚や生き方について深められるよう、35教材に加え、5教材を付録に置き、補充、深化の役割が果たせるよう構成されている。また、巻末には「福祉・ボランティア」等各教材を6つのテーマで分類するページを設け、生徒が学習したことを整理できるよう工夫されている。 〔例〕2年（巻頭、P192）</p> <p>●着眼点(2)について 巻頭に「話し合いの手引き」が設けられており、話し合い活動が活発になるよう工夫されている。また、心情円というツールを使うことで、自分の気持ちが伝えやすくなるよう工夫されている。 〔例〕2年（P3, 巻末）</p> <p>●着眼点(3)について 各学年に情報モラルに関する教材を配置し、生徒の身近でよく起こる SNS 上のトラブル等を取り上げ、情報モラルの観点から道徳的価値について考えることができるよう工夫されている。 〔例〕2年（P86～89）</p>	<p>●着眼点(4)について 巻頭の「道徳の授業はこんな時間に」において、振り返りのポイントが示されている。また、ポートフォリオとして学期や学年単位で学習を振り返ることができるよう「つぶやき」が設置されており、考えたり思ったりしたことを書き込めるよう工夫されている。 〔例〕2年（P4～6, 12）</p> <p>●着眼点(5)について 家庭や地域社会を扱った教材が配置されていたり、都道府県の伝統・文化などが紹介されていたりすることで、家庭や地域社会との連携が図れるよう工夫されている。 〔例〕1年（P66～70, 182, 183）</p> <p>●着眼点(6)について 学校を舞台とした教材が多く、生徒が道徳的問題を自分のこととして考え、自主的・自発的に学習できるよう工夫されている。 〔例〕2年（P18～22, 34～38）</p> <p>●着眼点(7)について 他教科等と関連する教材が取り上げられており、関連する教科マークが教材冒頭の右下に配置されている。 〔例〕2年（P48）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 各教材の冒頭には「導入」の文章を設け、学習のねらいを明確にして学習に入ることができるよう工夫されており、教材の末尾に設けられた「学びの道しるべ」では、生徒が教材を引きつけて考えられるよう、発問が工夫されている。 〔例〕2年(P22,25)</p> <p>●着眼点(2)について 自分の考えをもとに話し合い、様々な角度から物事を考え交流することができるよう、教材ごとに発問が工夫されている。 〔例〕2年(P25)</p> <p>●着眼点(3)について 生徒の発達段階に合った具体的な生活場面から情報モラルについて考える教材が掲載されており、情報機器を通じたよりよい人間関係について主体的に話し合うことができるよう工夫されている。また、「情報とよりよくつき合う」というコラムが設けられており、情報モラルについてより深く考えることができるよう工夫されている。 〔例〕2年(P70~75)</p>	<p>●着眼点(4)について 自分自身の変化や成長を感じたり、これからの課題や目標を見つけ、自分自身を高めていこうとする意欲を培ったりしながら学習できるよう工夫されている。 〔例〕2年(P190,191,巻末)</p> <p>●着眼点(5)について 各学年で「家族と自分との関わり」、「地域と自分との関わり」について考える教材が複数掲載されており、家族や地域社会の一員として、その役割と責任の自覚を深めることができるよう工夫されている。また、巻末の「これからを生きるみなさんへ」のページには保護者記入欄が設けられており、家庭との連携が考慮されている。 〔例〕2年(P48~51,118~121,192)</p> <p>●着眼点(6)について 生徒が共感的に読める教材、切実感をもって考えられる教材が数多く掲載されている。また、発達段階に合わせた適切な教材が配置されている。 〔例〕2年(P8~13)、3年(P96~99)</p> <p>●着眼点(7)について 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要である「特別の教科 道徳」として、各教科や特別活動等との連携を図るため、実施学年や学習時期を考慮した教材配列となるよう工夫されている。 〔例〕2年(巻頭, P14~17,146~151)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
38 光村	<p>●着眼点(1)について 学校生活の実態や生徒の成長にともなった教材で、多面的・多角的な見方や考え方ができるよう、問いの設定が工夫されている。〔例〕1年(P50～54)</p> <p>●着眼点(2)について 教材末のてびきには、問題を解決するために話し合うことを意図した発問が設定されている。また、ふりがなや脚注、挿絵を多く配することで、読みの負担を軽減し、生徒が多面的・多角的に考え、話し合うことが学習の中心になるよう配慮されている。〔例〕1年(P30～35)</p> <p>●着眼点(3)について 情報モラルに関する教材には「深めたいむ」というページが配され、生徒が教材で考えた道徳的価値をさらに深められるよう工夫されている。 〔例〕1年(P73～79)</p>	<p>●着眼点(4)について 各学年の最終教材に「道徳の学びを振り返ろう」、巻末には「学びの記録」が設定されている。自分の学びを振り返り、自分の変化や成長を実感できるよう工夫されている。 〔例〕1年(P158～160, 巻末)</p> <p>●着眼点(5)について 家族について描かれた教材から、自分と家族について考えが深められるよう工夫されている。また、全学年の巻末付録には、日本各地の伝統文化等が紹介されており、自らの地域のよさを自主的に探求しようとする工夫がされている。 〔例〕1年(P13～16, 178, 179)</p> <p>●着眼点(6)について 発達段階と教材に合わせて、「あなたはどう思うか」、「あなたならどうするか」という問いが設定されており、主体的に考えることができるよう工夫されている。〔例〕1年(P49)</p> <p>●着眼点(7)について 教材末のてびき「つなげよう」には、他教科で学習する内容との関連や、ユニバーサルデザイン等の現代的な課題との関連等が示されている。また、道徳の学びが1時間で終わるのではなく、そこから深く考えたり行動につなげたりできるよう工夫されている。 〔例〕1年(P39～41, 184)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
116 日文	<p>●着眼点(1)について 自ら考え学び、一人一人が誇りをもった生き方ができるような教材が多く配置されている。また、問題解決的な学習では、「問題をつかもう」、「自分で考えてみよう」、「問題について考え、議論しよう」のステップで主体的・対話的で深い学びになるよう工夫されている。〔例〕2年(P62)</p> <p>●着眼点(2)について ふせんやホワイトボードを活用した議論の方法が「学習の進め方」の「学習を深めるヒント」に示されており、言語活動が充実するよう工夫されている。〔例〕2年(P79, 97)</p> <p>●着眼点(3)について 全学年で情報モラルに関わる教材やコラムが掲載され、情報社会の倫理や情報セキュリティ等に関わる内容について、「友情・信頼」等の複数の内容項目の教材から、総合的に学習できるよう工夫されている。〔例〕2年(P80～85)</p>	<p>●着眼点(4)について 別冊「道徳ノート」に自分の考え等を書くことで、道徳科の学びを積み重ね、振り返り、生徒自身が3年間の自らの成長を実感し、自分の生き方に自信や誇りがもてるよう工夫されている。〔例〕2年(別冊)</p> <p>●着眼点(5)について 道徳科がどのような教科なのか、またこの教科書でどのようなことを学ぶのかが巻頭や巻末でメッセージ性を持って伝えられ、学校・家庭・地域の連携が図られるよう工夫されている。また、別冊「道徳ノート」には、保護者記入欄が付されており、家庭との連携が考慮されている。〔例〕2年(P2, 3, 巻末, 別冊40)</p> <p>●着眼点(6)について 身近な生活場面から文学作品まで、生徒が感動と共感を持てるような教材が多く配置されているため、興味・関心が高まり、学習意欲が喚起されるよう工夫されている。〔例〕2年(P30～37, 186～191)</p> <p>●着眼点(7)について 多種多様なコラムが掲載されており、学習内容を補充・発展させ、他教科等との関連やこれからの実生活に生かすことができるよう工夫されている。また、巻末の内容項目別教材一覧には、各教材が関連する他の教科等が示されている。〔例〕2年(P59, 巻末)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
224 学研	<p>●着眼点(1)について 自立した一人の人間として他者とよりよく生きていくために、「見つけよう」、「考えよう」、「話し合おう」、「生き方につなげよう」という4ステップをもとに、深く考え議論できるよう工夫されている。 〔例〕1年 (P45)</p> <p>●着眼点(2)について 読み物だけでなく、絵や写真、図やグラフなどが豊富で、生徒が自由に発想し、自ら感じ、考え、話し合いたくなるよう工夫がされている。また、考えを深めるための4つのステップが提示されており、話し合いの方法や互いに磨き合うポイントが掲載されている。 〔例〕1年 (P2, 3, 80, 81, 88, 89)</p> <p>●着眼点(3)について 情報モラルに関する教材が各学年2教材ずつ配置されており、SNSでのトラブル等身近なテーマを取り上げ、生徒が道德教育の視点から情報モラルに関する様々な考えを持ち、深めることができるよう工夫されている。 〔例〕1年 (P86～89)</p>	<p>●着眼点(4)について 巻頭と巻末に「マイプロフィール」、「心の四季」といった生徒が書き込むためのページが設けられている。1年間の自分の成長を感じて主体性や自尊感情を高めるとともに、これからの生き方を考えることができるよう工夫されている。 〔例〕1年 (P9, 176)</p> <p>●着眼点(5)について 家庭生活や日本の各地域と関わりのある教材が多数配置されており、学校・家庭・地域の相互の連携が深められるよう工夫されている。 〔例〕3年 (P46～49, 134～137)</p> <p>●着眼点(6)について 様々な分野で活躍する人、または先人たちに関係する教材など、生徒が興味・関心をもって学べるよう工夫されている。 〔例〕1年 (P138, 158)</p> <p>●着眼点(7)について 各学年に各教科等での道德性の育成につながる教材が設定されている。また、食育や防災教育等においても道德的観点から考えが深められるよう工夫されている。 〔例〕3年 (P30～35, 2年 (P120～123)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
232 廣あか つき	<p>●着眼点(1)について 教材をもとに考える主体的・対話的な学習を通して、多面的・多角的な思考を促し、人間としての生き方についての考えを深めることができるよう工夫されている。〔例〕2年（P104～107）</p> <p>●着眼点(2)について 自分の考えをもとに討論することを通して、学習の深まりが期待できる教材が設定されている。また、教材末の「考える・話し合う」における問いが、多様な考え方や感じ方に触れる対話的な学習ができるよう工夫されている。 〔例〕2年（32, 33）</p> <p>●着眼点(3)について 情報モラルについて考えることができる教材が全ての学年に掲載されており、巻末に設けられた特集ページには社会を生きていくために生徒に考えさせたいことが示されている。 〔例〕2年（P10～12, 160, 161）</p>	<p>●着眼点(4)について 別冊「道徳ノート」を活用し、「自分が自分に自分を問う」ことを通して、生徒が自分自身の学習を振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。 〔例〕2年（別冊 26～44）</p> <p>●着眼点(5) 家族との関わりや家庭での出来事を描いた教材、地域の人との交流や地域における行事等を題材とした教材が数多く掲載されており、家庭や地域社会との積極的な関わりを促す工夫がされている。また、裏表紙の「保護者の皆様へ」には、子どもの心の成長に関する家庭との連携について記載されている。 〔例〕2年（P77～81, 裏表紙）</p> <p>●着眼点(6)について 人間のよさや気高さやすばらしさを感じることができる教材が設定されており、生徒が今までの体験と照らしあわせながら興味・関心をもって学習できるよう工夫されている。 〔例〕2年（P17～19）</p> <p>●着眼点(7)について 各教科や他の教育活動との関連を図って学習することができるよう教材が選定されており、全学年の巻末の内容一覧では、教材ごとにそれぞれの関わりが示されている。〔例〕2年（P164）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
233 日科	<p>●着眼点(1)について 答えが1つではない道徳的な課題を、一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、考え、議論することができるよう工夫されている。〔例〕2年(P8～11)</p> <p>●着眼点(2)について 教材の文章が、「でも……。」という終わり方等で、自然と生徒が考え出すような仕掛けが施されている。また、教材末の「考え、話し合ってみよう そして深めよう」では、生徒の思考を揺さぶる問いかけになっており、教室で自然と議論が巻き起こるよう工夫されている。〔例〕2年(P15)</p> <p>●着眼点(3)について これからの人生で決して欠くことのできないインターネット・コミュニケーションについて、自分ごととして話し合える教材が設定されている。自分自身を振り返ったり、友達との接し方を考えたりすることができるよう工夫されている。〔例〕2年(P74～78)</p>	<p>●着眼点(4)について 自分が育んできたものを改めて客観的に確認し、これからの人生に向けての思いを確認できるよう工夫されている。〔例〕2年(P190, 191)</p> <p>●着眼点(5)について 「心の成長を目指して」では、道徳科を学校教育、地域・社会、家庭の中に位置づけ、体験的な学習を通して、生徒により広い視野から道徳科を捉えることができるよう工夫されている。〔例〕2年(P6, 96, 97)</p> <p>●着眼点(6)について 中学校現場を経験した教員が書き下ろしたオリジナルの教材が複数配置されている。中学生の問題や悩み、夢や希望等、生徒が興味・関心を持って真剣に向き合い、自主的に学習できるよう工夫されている。〔例〕2年(P48～53, 184～188等)</p> <p>●着眼点(7)について 他教科等との関連を図った学習が充実できるよう、道徳的価値の理解を基盤に、発達段階に応じた連続性と系統性をもたせた教材が設定されている。〔例〕2年166～171, 1年(P21～25)・2年(P25～28)・3年(P100～104)</p>

2 使用上の便宜

項目	発行者の 番号・略称	総 ページ	(1)内容別配当の分量					(2)教材・資料等の分量				
			A 主として自 身に 関すること	B 主として人 との関わり に 関すること	C 主として集 団や社会と の関わり に 関すること	D 主として生 命や自然、 崇高なもの との関わり に 関すること	その他	教材 数	書き 込み欄 の数	コ ラ ム の 数	体 験 的 な 学 習 へ の 手 立 て の 数	三 重 県 に 関 わ る 記 述 等
2 東書	1年	189	37	30	61	40	21	39	52	5	2	—
	2年	197	30	33	69	41	24	39	50	5	2	—
	3年	197	38	33	79	37	10	39	51	5	2	○
17 教出	1年	208	43	40	65	41	19	35	16	4	2	○
	2年	192	31	33	84	21	23	35	11	2	2	○
	3年	192	23	28	87	36	18	35	9	3	1	○
38 光村	1年	184	30	38	57	33	26	35	8	9	1	—
	2年	187	43	29	60	31	24	35	11	9	1	○
	3年	192	44	33	59	39	17	35	10	8	1	○
116 日文	1年	191	38	36	74	34	9	35	0	15	2	—
	2年	191	26	34	68	40	23	35	0	16	2	○
	3年	191	26	28	80	32	25	35	0	15	2	○
116 日文 (別冊)	1年	40	6	7	15	7	5	35	40	0	0	—
	2年	40	6	7	15	7	5	35	40	0	0	—
	3年	40	6	6	16	7	5	35	40	0	0	—
224 学研	1年	183	36	34	60	32	21	35	46	20	1	—
	2年	195	44	30	56	38	27	35	40	19	1	—
	3年	195	38	38	60	36	23	35	33	17	1	○
232 廣あか つき	1年	180	38	35	57	40	10	35	0	6	0	—
	2年	164	34	32	52	36	10	35	0	6	0	—
	3年	160	35	26	58	30	11	35	0	6	0	—
232 廣あか つき (別冊)	1年	44	6	5	10	4	19	22	22	8	0	—
	2年	44	6	5	10	4	19	22	23	7	0	—
	3年	44	6	5	10	4	19	22	22	12	0	—
233 日科	1年	192	28	35	87	28	14	36	8	11	0	—
	2年	192	31	39	73	36	13	37	5	13	0	—
	3年	192	37	33	64	38	20	37	6	7	0	○

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の大きさはA B判で、再生紙、植物油インキが使用されている。 ・教科書本文にはユニバーサルデザインフォントが使用されており、設問などは、文節の区切りで改行されている。 ・考え議論するためのツールとして、自己評価用紙、ホワイトボード用紙、心情円が付されている。
1 7 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさはB 5判で、再生紙、植物油インキが使用されている。 ・色覚等の特性をふまえた配色（カラーユニバーサルデザイン）やレイアウト、文字（ユニバーサルデザインフォント）が使用されている。 ・第1学年の教科書本文の文字が第2，3学年と比べ大きくなっており、中1ギャップの軽減になるよう配慮されている。
3 8 光村	<ul style="list-style-type: none"> ・B 5判で、環境に配慮した紙、植物油インキが使用されている。 ・教科書全体を色覚特性や特別支援教育の専門家が校閲し、学習に支障をきたすことのないよう工夫されている。 ・さし絵や登場人物の解説を入れることで、題材やねらいをイメージしやすいよう工夫されている。
1 1 6 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・B 5判で、再生紙と植物油インキが使用されており、教科書と別冊がブックインブック形式で一体化している。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の大きさ、罫線や囲みの使い方、配色などレイアウトが工夫されている。 ・学習内容を他教科や他の教育活動とつなげ、考えや視野を広げるコラム（プラットフォーム）が設けられている。
2 2 4 学研	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚情報を利用しやすいA B版で、環境に配慮した紙、インキ、印刷方式が使用されている。 ・ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザインが採用されている。 ・すべての教材が右ページから始まるよう工夫されている。
2 3 2 廣あか つき	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、別冊ともにA B判で、別冊は紙面が開きやすい中綴じ製本で、鉛筆で書きやすく、消しやすい用紙が使用されている。 ・白を基調とした紙面にイラストが配置されており、色の識別だけでなく、マークの形状やデザインの違いから必要な情報が読み取れるよう配慮されている。 ・第1学年は第2，3学年と比べ本文の文字を大きくすることで、小学校からの系統性が考慮されている。
2 3 3 日科	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書はB 5判である。表紙は過去から現在まで受け継いできた伝統や文化の写真を上段に、下段には現在から未来へとつながる新しい技術の写真が掲載されている。 ・4つの内容項目が色分けされている。 ・学習指導要領の内容項目順に、4章立てで教材を配置している。